

『時事直言』 No.1653 2024年2月5日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)



時事評論家 増田俊男

日銀と連合は諸悪の根源

金曜日(2月2日)の増田チャンネル(無料)で「日銀は諸悪の根源である」と述べ、それは何故かについて述べた。

日銀が理想とする賃金と物価の好循環の為には今まで30年間上がらなかった賃金が物価と共に安定的に上昇しなくてはならないと植田総裁は述べている。

政策決定会合が行われた1月23日恒例の物価情勢の展望が発表され、

物価の前年比は、2023年2.8%、2024年(予想)2.4%、2025年(予想)1.8%であった。

1960-70年代には常識であった「賃金は勝ち取るもの」という原則を忘れた今日の連合(労働組合)の経営者側に対する賃上げ要求は物価上昇率を基準にしている。

組合が30年間一向に上がらない物価を見つめ続けてきたから賃金は何時までも上らず、日本経済は30年間死に体となったのである。

30年前から組合が労働者の生活水準向上の為に実力行使で賃上げを勝ち取り続けていたなら企業は賃上げを価格転嫁せざるを得ず、結果物価が賃金と共に上がったはずだ。

30年間日本経済を死に体にした責任は、憲法で認められている労働争議権を放棄して、上がらぬ物価を眺めながら経営者と談合を続けてきた組合にある。

また連合の賃上げ要求は物価上昇にかかっていることを知りながら、2023年、2024年と物価は下げ続け、2025年にはターゲットの2%を割って1.8%まで下がるなどの予想を発表すれば、経営者側は、「それ見たことか」と喜んで賃上げは形だけとなり、賃上げの価格転嫁はなくなり、日本経済はデフレ体質(常に供給が需要を上回る)だから物価は上がるどころか下がり続け、日本経済死に体どころかご臨終になる。

植田総裁が展望で「賃上げ率が毎年前年度比プラスになれば、物価はターゲット(2%)かそれ以上になるだろう」と言えば、組合は毎年賃上げ率を上げざるを得なくなり、経営者が応じなければ実力行使に追い込まれ本来の組合に戻ることになる。

しかし植田総裁は(FRBの許可が下りないから)決して言わない。

日銀はFRBの日本支社だから仕方がない。

従って「諸悪の根源は日銀と連合にあり」である！

大好評発売中！増田俊男の小冊子 Vol.138

<2024年度日本特集>『真の日本を知れば、明日の日本が見えてくる』

現在増田俊男の小冊子 Vol. 138 は大好評発売中です。

内容は、*日本国憲法は誰が何の為に造ったのかご存じですか？ *日銀は一体誰のモノでしょうか？ *漂流し続ける主権無き日本丸は何処へ行くのでしょうか？ *本誌読者と増田塾塾生に告ぐ「災い転じて福となす」への道標(しるべ) *日本人が世界に誇れることがある！等です。価格は、1冊4,800円(税・送料別)。詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313、HP: <http://chokugen.com/>) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスダ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。